

令和7年3月

関係者各位

世田谷区立経堂小学校

校長 青鹿 和裕

次年度（令和7年度）に向けた改善方策

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

令和6年度の学校関係者評価委員会より報告書をいただきました。

令和6年度の自校での取組についての自己評価と学校関係者評価委員会の方々からのご提言、世田谷区の教育施策を受けて、次年度に向けての本校の重点目標を検討し、「次年度（令和7年度）に向けた改善方策」を作成いたしました。子どもたちの育成のために、教職員が一丸となって令和7年度も取り組んでまいります。今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 学校経営の基本経営ビジョン

経堂小学校が

- 子どもにとって・・・「日々通うことが楽しい学校」であること
- 教員にとっても・・・「勤務することが楽しい学校」であること
- 保護者、地域の方々にとって・・・「安心して子どもたちを託せる学校」であること

変わらず大事にしていきたい伝統となる「経堂小学生」のよさを伸ばしつつ、これからの新たな時代を創造するために必要な力を様々な活動を通して育成していきたいと考える。

- 子どもたちが日々の活動の中での発見や感動に自ら気付く
- 多くの仲間と触れ合う中で様々な違いを認め合い、自分や友達への理解を深め、自己を成長させる
- 自分の個性を生かして活動し学校生活をおおいに楽しむ
- 自分の思い、願いの実現に向けて課題を解決しながら、自らの成長を実感する

自らが課題に向き合い、判断して行動し、自分らしい生き方を実現するための素地として「自分づくり」をすることが学校の使命である。

そのために、全教職員で共有したキャッチフレーズを「自分で自分を広げる子ども」と設定し、学校全体で教育活動を推進する。

キャッチフレーズ *****自分で自分を広げる*****

2. 令和7年度の本校の教育目標

○よく考える子

○助け合う子

○健康な子

3. 令和7年度の重点目標

自らの成功体験や充実した活動を通して「自分のよさ」を知っている子どもは、挑戦したり、諦めずに粘り強く取り組んだりすることができる。また、「自分のよさ」を知っているからこそ、他人のことに注目し、他人のよさを発見することができる。そして、他人のよさについて、その人の喜びにつながるような援助や言葉がけができる。

この自分づくりとしての「自分で自分を広げる子ども」を育てていくための根底には、自分のよさに気付くことから始まる。そこで子どもたちに育てたい3つの力を以下のように設定する。

<課題を解決する力の育成>

「探究的な学び」を充実させ、自ら課題を見付け、解決のための見通しをもち、必要な情報を収集したり、整理分析したりして自分の考えをまとめ、表現できる子どもを育てる。

<自他を大切にすると共に、自己肯定感の育成>

子どもを認め、思いを聞く指導を基盤に、「学び合う活動」「学びを振り返る活動」を充実させ、自分や友達のよさを見付け、互いが伸びていく子どもを育てる。

<「やわらかい心」の育成>

自己の目標（ゴールイメージ）に向けて、諦めずに粘り強く取り組むことや互いに学び合い成長し合うことを通して、非認知能力を高め、健やかな心や体を自ら耕す子どもを育てる。

4. 重点目標を達成するための基本方針

(1) キャリア・未来デザイン教育の推進

- ・自分の役割を果たして活動することを通して、人や社会に関わり、自分らしい生き方を実現していくために、発達段階に応じた意図的な指導に取り組み、自分づくりをする。
- ・様々な機会を通して、自らの学習状況や活動を見通し、振り返りながら、自分のよさに気づき、積み重ね、自分の成長を実感する。
- ・教員が子どもたちと対話的に関わることを通し、子どもの変容や成長を価値付けながら自己肯定感を高め、さらなる意欲につなげる。
- ・探究的な学びを日常的に充実させ、自ら課題を設定し、どのように学ぶのか見通しをもち、仲間と共に質の高い学習を展開していく。

(2) 教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）や多様化された質の高い教育の推進

- ・ICTの積極的な活用により、子どもの情報活用能力の向上を図るとともに、「探究的な学び」を実現するためにも、工夫した学習指導を進め、学習効果を高める。

- ・教育データやデジタル技術の活用を図り、様々な校務を効率化し情報共有を充実させることで、校務負担の削減とともに学習や指導の効果を高めていく。

(3) 多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進

- ・すべての人に対して、あらゆる偏見や差別のない学校・学年・学級経営の充実を図り、自分や友達のよさを大切に、互いを高め合おうとする、豊かな人間性や社会性をもつ子どもを育成する。
- ・子ども一人一人の特性や課題、個々の教育的ニーズの理解に努め、その子どもに応じて SC、すまいるルーム、関係諸機関などの連携を取りながら校内体制を整え、個に応じた指導を充実させる。

(4) 地域社会と協働した教育の推進に向けて

- ・学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」の仕組みを生かし、学校支援コーディネーターを介して、地域人材や施設を活用し教育活動の充実を図り、「地域とともに子どもたちを育てる」「地域が参画する学校づくり」を目指す。
- ・地域運営学校として、学校、家庭、地域の皆様とビジョン（ゴールイメージ）を共有し、それぞれがそれぞれの立場で責任をもって子どもたちの健全育成に取り組んでいく。

(5) 健やかな体づくり

- ・日常的に運動に親しむとともに、自らすすんで運動に取り組む姿勢を育て、自らの健康について考え、実践していこうとする子どもを育てる。
- ・栄養士や養護教諭を中心とした食育や保健・健康指導を充実させ、子どもの健康に関する意識を高める。

(6) 学校における働き方改革の推進

- ・創造的な余白の時間を生み出し、教員の質の高い学びと持続可能な教育活動を進める学校の実現に尽くす。
- ・学年や専科といった広い枠組みで組織を見つめ直し、学年指導チームとしての運営力・指導力を高める。
- ・学校重点目標をうけた学校運営の各分掌組織編制を工夫し、学校としての組織目標の達成に向けた協働体制を向上させる。